

平成22年度 事業評価（事業活動記録）

事業No. 57

所管部局	美山支所	所管課	地域総務課	担当者名	大秦 弘己
事業名	パートナーシップ推進事業			事業分類	ソフト事業
細事業名	大学等連携協力事業			政策体系	442
会計	一般会計	科目	2.総務 - 1.総務 - 6.企画		

1. 事業の概要

まちづくりを考えるフォーラムの開催や大学生の受け入れを行い、大学との連携によるまちづくりが推進できた。

2. 事業の目的と必要性

①施策で目指す目標との関連付け

大学との連携により、発展的な新たなまちづくりを考える機会を作る。

②事業を実施する必要性

学生等の意見を聞くことにより、新たな発想が生まれる。また、地域との交流を深め地域行事への学生の参画を促進するため、大学との連携事業を行う必要がある。

3. 事業費の推移

	単位	平18決算	平19決算	平20決算	平21決算	平22予算	平23計画	平24計画
決算額または計画額	千円	272	249	482	193	155	220	220
うち一般職・嘱託職・臨時職の給与および共済費等	千円	0	0	0	0	0	0	0
財源内訳	使用料・手数料等	千円	0	0	0	0	0	0
	国・府支出金	千円	0	0	0	0	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	272	249	482	193	155	220
職員等の従事人員	人/年	—	—	0.25	0.20			
人件費	千円	—	—	1,715	938			
事業費総額	千円	—	—	2,197	1,131			

※事業費を要しない場合は「0」、事業を実施しない場合は「空白」で表示。
 ※千円未満を四捨五入し表示しているため、合計等が一致しない場合がある。

4. 主な事業費の内訳

佛教大学連携会議費	42,840円
美山フォーラム開催経費	150,000円

5. 事業結果の概要

大学や学生との連携により、新たなまちづくりへの提言や事業を実施することが出来た。

6. 活動の詳細

活 動 内 容	活動日又は時期	活 動 結 果 等
(1) インターシップ受入		
●インターンシップ生受入 社会人として働くための知識・経験を積むために、実際の職場において体験をする学生を受け入れている。21年度においては美山支所の内勤業務（事務補助）以外に、地域振興会主催の地域の催し等の業務などの内容で受け入れた。	8月3日～7日、8月10日～15日	2名の学生を受入 5施設に勤務
(2) ゼミ研修		
●新入生歓迎行事 平成21年度の社会教育学部公共政策学科新入生の研修行事。南丹市・美山町の概要等について研修。 美山町内施設見学	開催日：4月25日	学生136名 地域内の4施設の見学
(3) フィールドワーク実習		
●フィールドワーク実習 学生が美山町をフィールドとして学習、研修の場として訪れる。美山町内の各施設、研修目的により、聞き取り調査及び体験を通し美山の生活実態、観光、福祉、環境、コミュニティビジネスなどについて学び、地域住民との交流を深めている。聞き取り調査等のデータについては教材として活用される以外に、美山のまちづくりについてのデータとしても活用されている。	6月6日～7日・13日～14日・20日～21日・27日～28日、11月14日～15日・21日～22日・28日～29日、12月5日～6日	4クラスから学生計294人
(4) 美山フォーラム		
●美山フォーラム 平成21年度 第4回目となるフォーラムの開催 南丹市・美山まちづくり委員会・佛教大学の共催で開催。 「美山の魅力と可能性Ⅳ」～都市生活者の今と市場開発への着眼点～と題し、マーケティングコンサルタントの飯塚敬士氏の基調講演や美山町で地域活動をしている5人の方から報告を受ける形のパネルディスカッションを実施した。	開催日：2月15日	参加者：地域住民(南丹市全域から参加者あり) 約200名

7. 所属長評価〔平成20年度から改善した点、今後の展開など〕

佛教大学との包括連携協定の締結から、実績を積上げる中で、地域づくりの視点から市民に認知されてきている。地域課題の解決のためには、大学に一層斬新な提起と具体的な事業化を期待する声も大きく、ステップアップする新たな方向付けも必要である。

【参考】過年度の評価

■平成21年度の所属長評価

- ①事業執行にあたり議論を重ねた点
地域づくりのために、どう具体的に連携を図っていくのか議論した。
- ②当該事業のアピール事項
少子化により地域に同年代がない今日、学生の若い力と発想で地域の元気が再生される。
- ③反省点、今後の展開・方向性等
提案、提言のあった地域づくりを具現化していくための財源確保。